

## 魚津2040会議 報告書（第2回終了時）

令和元年5月22日

魚津市公共施設再編推進室

## 【開催状況】

## 第1回

- 1 開催日時 平成31年4月18日（木）19:00～21:00
- 2 開催場所 魚津市役所2階 第1会議室
- 3 出席者 メンバー16名、市役所職員13名、計29名

## 施設訪問会

- 1 開催日時 令和元年5月12日（日）13:00～17:00
- 2 開催場所 埋没林博物館、ありそドーム、新川学びの森天神山交流館
- 3 出席者 メンバー2名、市役所職員3名、計5名

## 第2回

- 1 開催日時 令和元年5月20日（月）19:00～21:10
- 2 開催場所 魚津市役所3階 大会議室
- 3 出席者 メンバー14名、市役所職員11名、計25名

## 【会議概要】

## 会議の趣旨

市の財政健全化に向け、20代から40代の若い世代の意見を公共施設の再編に反映するために開催。持続可能な公共施設のあり方を検討した。

## 第1回

市の財政状況等について説明後、公共施設のあり方等についてグループワークを実施。5グループに分かれて、主な公共施設について維持・廃止を議論した。全てのグループで、議論の対象となる全施設について議論し、維持・廃止の意見をまとめたため、第1回の維持・廃止の意見は、会議全体の傾向となっている。

## 施設訪問会

第1回で出た意見や疑問等を基に、各施設で働く職員に話を伺った。

## 第2回

第1回に引き続き、公共施設のあり方等についてグループワークを実施。4グループに分かれて、主な公共施設について維持・廃止を議論した。第1回と異なり、各公共施設について、より深い議論を行うため、各グループで議論する公共施設を絞ったため、第2回の維持・廃止の意見は、会議全体の意見とはなっていない。

○各施設に対する主な意見

施設名		議論したグループにおける主な意見	
		傾向	意見
1	総合体育館	<p>第1回 大多数が廃止</p> <p>第2回 廃止</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止を支持する主な理由は、市内に類似施設（ありそドーム）が存在すること。</li> <li>・課題は、子供向けスポーツスクール、年配向け介護予防スクールなど、既存利用者の代替施設の確保。</li> <li>・今後の検討事項は、代替施設として旧小学校が利用できるか。実現にいたっていない理由を知りたいとの意見が出た。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、廃止との意見が多数。</li> <li>・代替施設の確保について議論。廃止の場合、代替が必要な主な機能は、高齢者健康づくり、学童健康づくり、部活動。</li> <li>・高齢者や学童の健康づくりは、地区に出向いて地区体育館等でやることを想定。総体のような集約できる施設があると実施側はやりやすいが、一方で、各地区に出向くことによって新しい客層の開拓もある。現在も天神地区で実施している。</li> <li>・部活は、現在も旧小学校の体育館を利用しているケースはあるが、コート等の規格の問題はある。</li> </ul>
2	温水プール	<p>第1回 多数が廃止</p> <p>第2回 消極的な廃止</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止を支持する主な理由は、市内に民間施設が2つ、隣接市にも比較的新しい施設があること。</li> <li>・課題は、保育園活動や部活動を含む、既存利用者の代替施設の確保。</li> <li>・維持（建替）を支持する意見としては、ありそドームに併設し、利用料増や観光施設的な位置付けをして一体的な利活用を行うことで、適正な運営に繋がるのではないかとの内容。ただし、その場合も民間スポーツクラブによる運営を検討すべきとの意見もあった。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、廃止との意見にはなったが、議論したグループにおいては、あった方が良いが赤字を減らすためには止むを得ないとの意見が多数。</li> <li>・代替施設の確保について議論。一般利用は、民間や他市のプールで代替可能な一方、スポラの教室やイベント開催はできなくなる。</li> <li>・部活は、民間のプールが利用可能か確認する必要がある。民間プールの将来的な展望を含め、意見交換すべきではないか。</li> </ul>

3	吉田グラウンド	<p><b>第1回</b> 大多数が廃止</p> <p><b>第2回</b> 廃止</p>	<p><b>第1回</b>（吉田グラウンド・弓道場共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止を支持する主な理由は、収入がほとんどないことと、総体とプールが無くなる中、維持管理が困難であることや跡地利用を進める必要があること。</li> <li>・課題は、弓道場の扱い。代替施設があるのかどうかを知りたいとの意見が出た。</li> </ul> <p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、総合体育館を廃止する絡みで、廃止という意見が多数。</li> <li>・陸上チームは、市外で練習することを検討されるかもしれない。（小学校のグラウンド等では専門的なトレーニングができない。桃山陸上競技場では照明がなく夜間の利用ができない。）</li> </ul>
	弓道場	<p><b>第2回</b> 維持</p>	<p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回では総合体育館・吉田グラウンドと共に廃止との意見が多かったが、議論したグループにおいては、新川地区内に類似施設が無いことから、弓道協会による管理等の方法を検討しながら維持という意見となった。</li> </ul>
4	ありそドーム	<p><b>第1回</b> 大多数が維持</p> <p><b>第2回</b> 維持</p>	<p><b>第1回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持を支持する主な理由は、総体を廃止すること。</li> <li>・今後の検討事項は、利用料金の適正化や他分野のテナントを入れることによる収入増、不要な機能（民間に類似施設の多いトレーニングジムや、展望台など）の廃止など。</li> </ul> <p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、維持の意見。</li> <li>・運動をしない人でも、〇〇魚津やフリーマーケット等のイベント時には足を運ぶ施設であることから、そういう催しを増やすことも重要との意見。</li> <li>・公共の役割を担っているので、トレーニングジム等は、民間で手の届かないところを救い上げるような体制としていくことが重要ではないか。</li> </ul>

5	桃山運動公園	<p>第1回 多数が維持</p> <p>第2回 維持</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持を支持する主な理由は、吉田グラウンド、天神山野球場を廃止すること。</li> <li>・今後の検討事項は、利用料金の適正化による収入増と、ロケーションを活用した運営など。</li> <li>・一方で、隣接市にも代替施設があることから、廃止を支持する意見もある。</li> <li>・新川学びの森天神山交流館と天神山野球場などを総合的に活用する場合は、逆に桃山運動公園が不要になるなど、魚津市全体で維持する施設と廃止する施設を決める必要がある。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、維持の意見。</li> <li>・施設のポテンシャルは高いので、お金をかけてカフェ・宿泊施設・公園機能の強化等を行う方針もありではないかとの意見。</li> <li>・収入増加の方策として、イベント利用の促進も考えられるが、芝生が傷み、修繕にお金がかかることが懸念される。</li> <li>・市としてどういう施設にしたいかを決めることが重要。無料でも良いから人が集まる施設にするならば公園等を充実させる、スポーツ施設に特化させるならばイベント等は諦めるなど。</li> </ul>
6	天神山野球場	<p>第1回 維持と廃止が拮抗</p> <p>第2回 維持と廃止が拮抗</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止を支持する主な理由は、収入がほとんどないこと、類似施設が存在すること。</li> <li>・維持を支持する主な理由は、大学女子野球の会場として定着していること、新川学びの森天神山交流館を含め、文化・スポーツの拠点として多目的用途での利用可能性があること。</li> <li>・今後の検討事項は、地区や野球協会等による管理や、利用料の増額について。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、維持と廃止の意見が拮抗。</li> <li>・単独で見ると廃止も止むを得ないが、学びの森との関係性が非常に強いことを考慮すべきとの意見。</li> <li>・「野球場」となっているが、サッカー等の利用も可能なので、例えば「天神山運動場」として他競技の利用も推進することで、利用率の拡大や料金アップに繋がるのではないかと。</li> </ul>

7	新川学 びの森 天神山 交流館	<p>第1回 多数が 維持</p> <p>第2回 維持</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持の意見が多数を占める。主な理由は、音楽機能の類似施設が近隣に存在しないこと。新川文化ホールは代替施設とならない。廃止を支持するグループにおいても、代替施設における機能の維持が課題として出ている。</li> <li>・今後の検討事項は、使用料の適正化による収入増と、施設の活用方法。周辺自治体を含めても希少価値が高いため、使用料の増は受け入れられやすいとの意見。私立学校等の誘致という案もあった。</li> <li>・現在の方針である部分的な廃止は非効率的であり、廃止にするならば全てするべきとの意見もあった。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、維持の意見。</li> <li>・音楽・ダンス等の練習施設に特化し、利用料金の値上げを行うことで維持するという意見。宿泊施設と食堂は廃止する。</li> <li>・低料金で利用可能な音楽・ダンス施設としての利用価値を前面に押し出し、市外にもPRして集客を図ることで、収入増加を図ることが可能であると考えられる。</li> <li>・第1回でも出たが、立地も含めて魅力的な施設であり、学校や企業の誘致を検討してはとの意見が出た。</li> </ul>
8	歴史民 俗博物 館	<p>第1回 大多数 が廃止</p> <p>第2回 廃止 (移転)</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止の意見が大多数を占める。主な理由は、施設に魅力がないこと。</li> <li>・今後の検討事項は、今後の資料の保管及び展示について。再編方針において小学校跡地へ集約という方向性が出ているが、学校にこだわる必要はなく、図書館や埋没林館等に機能を移し、移転先の入館者増加にわずかでもつなげてはどうかとの意見もあった。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に引き続き、廃止の意見だが、文化財の保存と教育機能は維持すべきとの意見。</li> <li>・もっと多くの人の目に触れることのできる公共施設などへ移転し、機能を集約化することで、コスト縮減と効果向上の余地がある。</li> <li>・現在は無料だが、使用料を取っても良いのではないかと。</li> </ul>
	吉田記 念郷土 館	<p>第2回 廃止</p>	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・星の杜小学校に類似の機能が備わったため、廃止との意見。</li> </ul>

9	埋没林博物館	<p>第1回 維持と 廃止が 拮抗</p> <p>第2回 維持</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>維持と廃止の意見が拮抗。・廃止を支持する主な理由は、収入が少ないこと、一般的な層への訴求力が弱いこと。水族館に埋没林を持っていき、水関係の施設を集約できれば運営しやすいという意見もあった。</li> <li>維持を支持する主な理由は、水族館を含めた海沿いの施設・景観が魚津市の一番の特色であること、リニューアルやカフェ併設を経て魅力的な施設になっていること。</li> <li>今後の検討事項は、機能縮小及び経費削減と、会議室などの多用途利用。歴博等の他の機能を入れる案や、思い切って全部無料にして、支出の部分を大幅にカットする案も出た。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回では維持と廃止が拮抗していたが、今回議論したグループにおいては、魚津市の特色であり、維持すべきとの意見が多数。</li> <li>維持するために必要な収入増の方策は、使用料の増、有料スペースへの誘導、その他収入の増、利用者の増など。</li> <li>有料スペースへ誘導するためには、イベント開催などにより目的を作る方法、水槽で泡が見えたら幸せになるなどのストーリーを作る方法、屋上の景観をPRする方法などが考えられる。</li> <li>異業種交流により、利用者が増加する。魚津のりんご×埋没林など、一見関係はなくても、どんなこじつけでもできる。また、外部に、博物館のカフェスペースなどを使ったイベントをしませんかという告知も積極的に行っていく。</li> </ul>
10	水族博物館	<p>第1回 大多数 が維持</p> <p>第2回 維持</p>	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>維持の意見が大多数を占める。主な理由は、希少性。</li> <li>今後の検討事項は、使用料の適正化と魅力向上。ただし、利用者の層や求めるサービスが違うことから、近県の水族館に合わせた使用料増は難しいとの意見も。</li> <li>どういう人をターゲットにしていき、そのためにどのような内容の展示をしていくのかを考えるべきとの意見があり、特に、子育て面で魅力的と感じてもらえる取り組みを要望する意見もあった。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回に引き続き、維持の意見。魚津市の特色である一方で、博物館であることから教育面への影響も大きいとの意見が多数。</li> <li>維持するために必要な収入増の方策は、使用料の増、物販の増、宿泊体験等の実施など。</li> <li>食堂、土産物屋を一体的に運営することで相乗効果を生み出すことができるのではないか。</li> </ul>

	保育園	<p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育児童数の少ない小規模園は廃止し、街部に集約すべきとの意見。</li> <li>・ 理由は、小規模園だと経験できないことが増え、小学校入学時に心身両面において大規模園で育った子どもとのギャップがある状態になるため。</li> <li>・ また、小規模園では、子どもの人数だけでいうと保育士1人でも対応できるところを、年齢別の対応や遅番・早番の対応で保育士が4、5人必要となる。</li> <li>・ 保護者に複数の選択肢を残すためには、公立を残しても良いのではないか。</li> </ul>
11	児童センター	<p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚津市の児童センターはどれ位の年齢を対象にした何の施設かわからないとの意見。</li> <li>・ 児童センターが学童化しており、児童館が本来果たすべき、子どもがいつでも遊べる場所としての機能が果たせていない。児童センターが4館あるので、1館で学童をやめて、児童館としての機能を充実させてはどうか。</li> <li>・ 平日午前から15時頃（学童利用開始）までの未就園児向け施設が過剰ではないか。児童センター4館、健康センター、加積保育園2階にも赤ちゃん向けの広場がある。学童までの時間は、4館全てを開館する必要はないのではないか。</li> </ul>
12	地区公民館	<p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設維持には大きなコストを要しているが、主な利用者である高齢者や子どもが歩いて行くことのできる距離にあることに意味がある施設であり、1地区1公民館というあり方はすぐには変えられないとの意見。</li> <li>・ 一方で、若い世代の利用が少ない施設に多額の費用をかけることに疑問があり、地区にもよるが、現状のような大きな建物は不要ではないかとの意見も。</li> <li>・ コミュニティセンター化をして、地域でも稼いでいこうという流れができ始めている。空き校舎に入った地区などは、色々と考えて欲しい。</li> </ul>
13	旧小学校	<p><b>第2回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市としての方針がある程度は必要との意見。</li> <li>・ どういう活用をしたいか地域で意見を出すケースが多いが、そのとおり出来るのかどうか分からない中での議論になっているのでは。</li> <li>・ 体育館機能を体育協会で管理することは可能。</li> </ul>

## ○施設全体に対する主な意見

### 第1回

- ・利用料の増は必要だが、利用者が減らないラインの見極めが必要。安易な利用料アップはよくない。近隣他市の類似施設等と比較はすべきだが、サービス内容と照らし合わせて決定する必要がある。逆に希少価値のある施設は値上げをしても良い。
- ・利用料増額と施設の魅力アップをセットで考えるべきである。維持する施設は、単に維持するだけでなく付加価値をつけていくことが重要。民間では、長期間同じ内容だけで利用者数を維持できるという考え方はない。
- ・利用者が多いから維持、少ないから廃止、という考えはナンセンス。指針とすべきは、代替できる施設が民間含めてあるかどうか。特に、民間に類似施設がある場合は、行政が民業を圧迫しているのだという現状を理解する必要がある。
- ・代替できる施設に関しては、市内だけでなく近隣他市も含めて考えるべき。例えば、プールは黒部、野球場は魚津、といった調整を行政ですていく時代となっている。
- ・魚津市は、施設が点在しすぎている。集約により、相乗効果が生まれる施設も多いのでは。
- ・利用者の声を聞くことなしに、施設の存廃を議論することはできない。
- ・人口減少を防ぐためにも、子どものための機能は維持すべき。
- ・普段、何気なく公共施設を使っているが、これほどまでに赤字額があるとは知らなかった。現状を知ることができたこと、今後の公共施設のあり方について考えることができただけでも貴重な場となった。

### 第2回

- ・料金アップは全施設共通で当然しなければならない。しかし、財政難が周知されているこのタイミングで料金をアップすると、お金が無いからという見え方をする。
- ・団体競技での施設活用の場合は、料金をアップしても人数割りができる。施設の利用形態等を考えながら上げ幅を検討していく必要がある。
- ・行政と体育協会で事業の住み分け、連携ができていないところがある。例えば、高齢者健康作り等は、体育協会でも行政でも類似の事業を実施している。行政の事業参加者に対し、「もっと色々なことをしたければ体育協会の事業もある」と促してもらえることで、より介護予防効果を生むこともできるはず。行政の費用削減にもつながるため、色々な施設、組織と行政がコミュニケーションを深めていくことが重要。
- ・各施設の活性化プロジェクトチームを作り、異業種の人も含め、企画から参画すれば良いのではないか。
- ・どの施設においても子育てを意識した仕掛けは必要だと思う。ただし、市内小中学生無料や孫とおでかけ支援事業などの割引制度については見直しが必要。
- ・施設を廃止しても、建物を残すと維持管理費がかかる。つぶして宅地にした方がよい場所もあるのではないか。
- ・高齢者だけでなく、若い世代でも、近視眼的な考えになり、将来を見据えた議論ができていない。2060年代の現役世代になりきって町の将来を考えたり、仮想将来世代になりきるグループと、現世代のグループが交渉したりする、フューチャーデザインというワークショップも面白いのではないか。



魚津2040会議 メンバー

	分野	氏名	所属等
1	青年団体	関口 雄介	新川青年会議所理事長
2	〃	大崎 正貴	商工会議所青年部会長
3	産業関係	酒井 洋和	連合富山Q F S委員会
4	〃	富居 芳弘	青年農業士（りんご）
5	女性関係	阿部 ともみ	※SODO
6	〃	大島 恵	※SODO
⑦	福祉施設関係	成瀬 香里	道下保育園 保育士
⑧	〃	柿本 尚子	社会福祉協議会職員
⑨	学校施設関係	浦田 さおり	市PTA連合会
⑩	〃	溝口 祥子	上中島地域振興会
⑪	〃	前田 尚成	ら・こんせーる・のくちゅーる
⑫	公民館関係	長谷川 恵理子	上野方公民館書記
⑬	体育施設関係	三谷 智輝	スポーツ推進員
⑭	〃	澤田 樹孝	うおづスポラ
⑮	文化施設関係	伊東 信一	利用者代表
16	三太郎塾OB	浜田 孝司	MATINオーナー
17	財務関係	荒地 浩志	会計事務所
18	新成人等	長勢 将	成人式実行委員会
19	新成人等	椎名 宥喜	成人式実行委員会
20	新成人等	井出 寛子	成人式実行委員会
	市役所	池田 英史	公共施設再編推進室
	〃	清水 雅大	〃
	〃	石川 竜也	商工観光課
	〃	高瀬 大樹	地域協働課

○は施設関係